

平成20年度 第1回千葉県博物館協議会議事録

日 時 平成20年8月27日(火) 13:30~15:30

場 所 千葉県立中央博物館会議室

出席者

(委員)

明石委員《議長》 片山委員 大森委員 水島委員 秋田委員 鵜澤委員
大澤委員 小野委員 川崎委員 栗原委員 篠原委員 西村委員

(博物館)

村山美術館長 佐久間中央博物館長 佐久間現代産業科学館長
矢戸関宿城博物館長 吉本房総のむら館長 三浦安房博物館長

日 程

開 会

博物館あいさつ

議 事

- (1) 各美術館・博物館の事業概要について
- (2) 「博物館における地域振興のあり方について(答申)」の説明について
- (3) 各美術館・博物館における平成20年度の地域振興への取組みについて
- (4) 地域振興への新たな取組みについて
- (5) その他

その他

閉 会

<博物館あいさつ>

県立博物館・美術館の設立から現在の状況について

<議 事>

(1) 各博物館の事業について

各博物館長から平成20年度の事業概要について報告

[質疑・意見]

委 員:

入館料と予算の関係はどうなっているか。入館料は各館予算に配分されるのか。

博物館:

基本的には企画展やメンテナンスに反映される仕組みになっている。

委 員:

入館料収入が増えれば博物館の予算が増えると考えてよいのか。

博物館：

そのように考えて良い。

委員：

房総のむらでは、韓国と台湾からの旅行者の入館が増えているが、中国からの旅行者の入館はどうか。

博物館：

中国からの旅行者の入館も増えている。各国ともツアー客で、成田空港の待ち時間に観光バスで来ている。

委員：

路線バスなど成田空港と結ぶ交通機関はあるか。

博物館：

路線バスはない。個人観光客については、成田市と提携を組んでコースを考えているが、まだ確実に来館するコースは出来ていない。

委員：

房総のむらは、指定管理者制度になって、どのようなところが変わったのか。

博物館：

いちばん変わったのは、実施事業を自由に組めることである。実施事業に見合う体験料等を徴収している。指定管理者は、県からの交付金の中で人件費から施設管理までを処理するが、実施事業では独自に企画した体験や商品で収入を得ることができる点が、県直轄の博物館と全く違う点である。但し、料金設定等については文化財課と協議し、適正な設定で県民に還元している。

委員：

従業員の志気に変化はあったか。

博物館：

自分たちが頑張れば、入館者も増え収入も上がるので、意識は違うと思う。我々は企業体と同じであると常々館員に話している。

委員：

実施事業の中で、テレビや映画のロケ収入は大きいか。

博物館：

条例に基づき県に納める使用料もあるが、房総のむらとして徴収できる部分もある。テレビで放映されると、来館者数や販売が増える。メディアの戦略効果は非常に大きい。

委員：

アジア以外の、ヨーロッパ等からの来館者はどうか。

博物館：

ヨーロッパの方も若干はある。個人客が多いが、来年度以降にツアーを企画してもらえる可能性はある。

委員：

外国人観光客へのガイドは、特別に設定されているか。

博物館：

ガイドブックは4ヶ国語に対応しており、英語・中国語・韓国語を話せるボランティアの方も予約で対応している。

委員：

来館者数に応じて、職員の変則的な勤務はあるか。

博物館：

勤務のローテーションを決めて対応している。

委員：

中央博物館では、音声ガイドを行っている箇所、または導入計画はあるか。

博物館：

以前、美術館で使ったことがある。中央博物館では19年度企画展「化石が語る熱帯の海」の際、有料で提供し好評であった。今年度も常設展で試験的に音声ガイドを導入することを考えている。

委員：

今回の事業概要説明では、研究に関する報告（研究報告の刊行状況、研究内容など）が省かれているが、その理由は。

博物館：

今回は地域振興関係がメインなので、このような説明となった。ご指摘の事項については、年報に入っているので、参照されたい。

(2) 「博物館における地域振興のあり方について（答申）」の説明について

事務局から平成19年度第3回協議会での諮問事項に対する答申が協議会から示された旨説明

(3) 各美術館・博物館における平成20年度の地域振興への取組みについて

平成20年度地域振興への取組みについて各館から説明

[質疑・意見]

委員：

中央博物館本館にはボランティアがおられるが、大多喜城分館にはいない。各施設毎に募集するしないを判断しているのか。

博物館：

大多喜城分館・大利根分館については、そのあり方について検討中であり、なるべく早く結論を出し、本館と連携していきたい。

委員：

子供達は虫が好きですが、虫がいるような環境を含め、郷土愛まで発展させたいと願っている。子どもたちがもっと調べたい、もっと知りたいと思った時、博物館ではどのように対応しているか。

博物館：

中央博物館では、房総の山のフィールドミュージアム事業として、清和県民の森でさまざまな研究活動を行っており、これを全県下に広めたいと考えている。本館には学習情報センターを開設しており、質問に対して職員がリアルタイムで対応する体制を、電話も含めて整えている。

委員：

高校生・大学生の入館者が少ないが、その対策を何か考えているか。

博物館：

中央博物館では、単位を取得できる校外授業の一環として高等学校との連携を進めている。また、今回の「大昆虫展」では高校生にボランティアとして館の内側に入っただき、博物館の魅力を口コミで広めていこうということも始めた。しかし、高校生対策はまだ不十分であり、暗中模索の状態である。

博物館：

現代産業科学館では、職業系の高等学校を対象とした高等学校産業教育フェア、高等学校の単位認定支援授業、連携授業、大学生については県内大学と連携して理工系等大学の展示会を行っている。

博物館：

房総のむらでは、大きなイベントの時、地域の特別支援学校・高校で生産実習したものを販売してもらったり、大学生のインターンシップを受け入れたりしている。しかし、高校生・大学生の入館者数は一般の方より少ないので、それらに向けた取り組みは必要だと自覚している。

博物館：

関宿城博物館では、地域の高校が総合学習の一環として、関宿に関する歴史を調べ、展示パネルにして博物館で展示するなどの連携を行っている。

博物館：

安房博物館では、水産高校の授業の後に来館されたり、全校で来館された高校もあった。高校生・大学生の入館者数増については、いろいろ対策を考えている。

博物館：

美術館では、高校生が自ら企画し調査研究広報展示を行うギャラリートークを、単位が取得できる校外学習として実施している。

(3) 地域振興への新たな取組みについて

[質疑・意見]

議 長：

今後の博物館協議会の在り方も短い時間で何を審議するのか、知のネットワークをどう構築していくのか、お互いを助け合っていくにはどのようにしたら良いのかという視点からやっていったらよいのではと今日感じた。

6館がどう共存共栄していくかという視点からご意見を願います。

委 員：

プログラムと広報先について提案したい。プログラムとしては、一般社会人に対して博物館の利用のしかたの講習を行い、コミュニケーター、コーディネーターを養成する講座を行ってほしい。また、その広報を公民館、生涯学習センター、図書館などで展開してほしい。

委 員：

昨年度、美術館と中央博物館で協働の企画をされたように、他館との連携企画を行って良いのではないか。

議 長：

以上で平成20年度第1回博物館協議会を終わりにします。